



みつはし 三橋さぶろう

議会活動報告

孫育てハンドブック

私ごとですが、5月30日に第2子（女の子）が誕生しました。産後は妻のサポートと子育てを優先しておりましたので、朝の駅頭活動等は縮小しておりました。しかし、市議会や公務はほぼ通常通り行っておりますので、市政相談やご意見は遠慮なくお申し付けください。

第2子の妊娠がわかったときには、2回目でもあるので、前回の経験や知識から、先々の見通しを明るく楽観的に考えておりました。しかし、5歳の長男を育てながら、妊婦の妻をサポートすることは第1子の妊娠出産とは違う大変さを感じました。さらに、妻が切迫早産の恐れのため病院に入院したときはちょうど市議会が開会中でしたので、本当に苦しい思いをしました。周囲の方々からの支えを頂いて、どうにか乗り越えることができましたが、子育て支援の充実が必要であると痛感しました。この経験を議員活動に活かしてまいります。

子育てが大変な時に、頼りになるのが祖父母。おじいちゃんとおばあちゃんです。私も、妻のお母さんに助けてもらいましたし、私の母も長野から来てもらいました。多くの子育て世代は両親に助けてもらっていると思います。祖父母が子育てを応援してくれることは

(うら面へ)

三橋さぶろう プロフィール

- 1978年 長野県木島平生まれ(39歳)
- 2002年 中央大学商学部卒業
株式会社カネボウ
江東区健康スポーツ公社
- 2008年 衆議院議員 野田佳彦秘書
- 2011年 衆議院議員 若井康彦公設秘書
- 2015年 船橋市議会議員選挙 当選
・健康福祉委員会 ・会派 民主連合
- 特 技: クロスカントリースキー
1998年長野オリンピックボランティアスタッフ
2002年ソルトレイクシティ・パラリンピック日本代表コーチ
- 家族:妻、息子(5歳)、娘(0歳)

(表面から)

本当に助かりますが、一方で困ること、悩んでしまうこともあります。子育てを祖父母に手伝ってもらったことがある方は、大体、経験されていると思います。自分の子どもにやってほしいことを、思い通りやってもらえない。逆に、やってもらいたくないことを、されてしまう。そんな経験あるのではないのでしょうか？ 例えば、子どもが欲しがるものを何でも買い与えてしまう。お菓子や甘いものを多く与えてしまうなど。。

こうした祖父母との子育ての違いで起こる問題の原因は、自分たちの子育て方針をしっかりと伝えられていない、コミュニケーション不足でもありますが、時代の流れと共に子育ての方法が大きく変わっており、祖父母たちがやってきた子育て方法と異なっていることも大きな要因だといえます。世代によって子育て方法が異なる具体的な例、赤ちゃんを育てるときにミルクを勧められた世代もいますが、現在は母乳を与えることを推奨している。次に赤ちゃんの日光浴については、過去に体内でビタミンDをつくり、くる病を予防するため推奨されており、母子健康手帳にもその必要性が書かれていましたが、いまは記載されていません。むしろ紫外線対策を行うようになっていきます。(日本助産師会編集「はじめて孫をむかえる人のためのおまごBOOK ミニ」より)

こうした子育て方法の違いによるトラブルを防ぐため、祖父母が子育てをするときに円滑で円満にできるように、習志野市などの自治体で、子育て方法の違いについての解説や、子どもや孫との付き合い方、子どもに関する施設の紹介など書かれた、祖父母手帳、孫育てガイドブックを作成し配布しています。船橋市でも「孫育てガイドブック」の作成を求め、市議会で質問し要望いたしました。

祖父母が子育てに参加することは、パパやママにとって子育てのサポートを受けられるという大きなメリットがあります。祖父母にとっては、子どもとかかわる楽しさや喜びを感じ、生きがいにもなります。孫にとっては親とは違う世代と接することで考え方、経験、歴史や伝統、風習を学ぶこともできます。家族全員、三世代にメリットがありますので、船橋市としても孫育てを応援してもらいたいと思います。

ご意見やご要望をお寄せください。

〒274-0063 **船橋市習志野台4-10-12** (新京成線習志野駅から徒歩4分)

電話：047-402-2810 FAX：050-3488-3190

E-mail: funabashi@mituhashisaburo.jp

HP: <http://mituhashisaburo.jp>

事務所にお越しの場合は、あらかじめご連絡いただくと助かります。